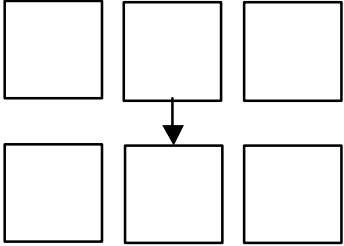


本時の目標 端数部分の大きさを表すのに、目盛りの打ち方を考えることや、打った目盛りで半端をどうやって表すのかを考えることを通して、10等分の目盛りのついた1ますの図から小数が用いられることを知り、小数の表し方と読み方を理解する。  
自分の考えをペアで伝え合うことができる。

本時の展開

| 過程   | 学習活動  | 指導・支援  |
|------|---|--|
| 問題提示 | 2.3 のジュースを1 ますに入れ、2 と少しという量を視覚的に見せる。<br>ジュースを ますで測ると2 と少しありました。このかさはどれだけでしょう。   | ジュースの量の演示 (T2)<br>よりも下の単位がないのでどうやって表せばいいのかという必然性を持たせる (T1)   |
| 課題化  | ・これ以上は単位を落とせないなあ ・目盛りが付いていたらいい<br><b>2 と、はんばなジュースのかさを自分なりに表してみよう。</b>   | 戸惑っている子には目盛り入りのます図カードを使うようにアドバイスする (T1)  |
| 課題追求 | 個人追求 (考えが持てたペアから順次ペア交流)<br><br>ヒントカード<br>10cm 四方のます図 (目盛りなし) と水色のカードを用いて考える<br>・3つに分けた1つ分くらい ・下から3cmの所までである<br>・目盛りの下から3までである ・10で分けた目盛りの3までである<br>・1を10で分けたものが3つ分ある<br>A、2と <input type="text"/> がある<br>ペアで交流しながら発表の準備をする (プリントを用いて)<br><b>交流のポイント</b> どうしてそういう目盛りを打ったのか<br><b>その目盛りを使ってどう表したのか</b> | 戸惑っている子には目盛り入りのます図カードを使うようにアドバイスする (T1)<br>個別チェック、カード渡し (T2)<br>つまずいている子の発見、考えの分類 (T1, T2)<br>自分の考えを言い出しにくいペアには最初に寄り添いきっかけを作る。(T1, T2)<br>T1に対するアドバイス (T2)<br>全員に分かり易い話し方をするように呼びかける (T1)<br>うまく発表できたペアを価値づけていく (T1, T2) |
| 解決   | 全体交流<br>ペアで前に出て発表する。(個人意見の場合は個人)  | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">             &lt; 研究の視点 &gt;<br/>             ・端数を表すために根拠のある目盛のつけ方をしようとしているか。<br/>             ・交流のポイントに沿って自分の考えを伝えることができたか。           </div>                       |
| 一般化  | 1を10個に分けた1つ分の事を0.1 (れいてん1デシリットル) と言い、それが3つ集まったものを0.3 (れいてん3デシリットル) と言うことを押さえる<br><br><b>ジュース全体の量は、2と0.3を合わせた2.3であることを押さえる</b>   |  |
| 評価   | ・はんばな量を表すには0.1を10等分した1つ分である0.1をもとにして、小数を用いて表せばよい。<br>類題に取り組む 感想を発表する  | まとめの紙を配る (T2)<br><br>考えの変容をふり返るように呼びかける (T1)   |

